

Digest of Science of Labour

労働の科学

2 0 2 2
January
Vol. 77, No. 1



緑の伝言板／山本美智代

特集

コロナ禍に負けない新しい生き方を目指して

ポストコロナ時代における児童養護施設の課題／堀場純矢

あなたは一人ではないーコロナ禍と闘う女性たちの声に耳を澄まして／倉重 都

芸術は生きる喜び, 明日への力ーお客様とともに演劇の灯を守り抜く／紫雲幸一

芸能従事者の今⑦

森崎めぐみ

凡夫の安全衛生記⑤⑨

福成雄三

連載

巻頭言

新しい世紀に踏み出す

濱野 潤

連載

大原孫三郎と清水安三⑧

兼田麗子

漂流者たちークミジヨの肖像⑩

本田一成

チャレンジ! SDGs⑧

泉 貴嗣

労働の科学

2022
January
Vol. 77, No. 1

巻頭言

俯瞰（ふかん）

101年目の挑戦——労研の役割とあり方①

新しい世紀に踏み出す

濱野 潤 [大原記念労働科学研究所 理事長]

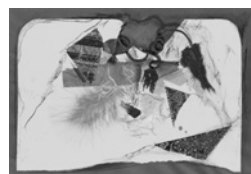
1

表紙作品：山本美智代

「緑の伝言板」

コラージュ（21×25cm）

表紙デザイン：大西文字



コロナ禍に負けない 新しい生き方を目指して

ポストコロナ時代における児童養護施設の課題

..... [日本福祉大学社会福祉学部] 堀場 純矢 4

あなたは一人ではない

—コロナ禍と闘う女性たちの声に耳を澄まして—

..... [あかしあ法律事務所] 倉重 都 9

芸術は生きる喜び、明日への力

—お客様とともに演劇の灯を守り抜く—

..... [劇団青年座] 紫雲 幸一 14

Graphic

広がる参加型職場環境改善 12 [見る・活動](131)

..... 川北 研人 口絵

Series

雲仙・普賢岳大火砕流から30年、今こそ「記録」を伝えたい (3)

今、災害を後世に伝えるいくつかの取り組み

..... 松下 英爾 19

Series

芸能従事者の今(7) ストレスの実態と希死願望	森崎 めぐみ	28
安三、伴侶を得る 大原孫三郎と清水安三(8)	兼田 麗子	32
「#教師のバトン」で伝わる(8) 教職員の過酷な勤務環境	藤川 伸治	35
ILOインド・南アジア こぼればなし(9) インドの綿花栽培農民への支援	川上 剛	38
チャレンジ!SDGs(8) 「書かれていないコト」は優先順位が低い	泉 貴嗣	42
漂流者たち クミジヨの肖像(10) 「連合は」クミジヨをどうあつかってきたか(2)	本田 一成	44
凡夫の安全衛生記(59) 「予防できるとの期待」歯の健康の取り組み	福成 雄三	46

Column

Talk to Talk 如何せん	肝付 邦憲	48
BOOKS 『実力も運のうち：能力主義は正義か?』 メリトクラシーと現代社会	椎名 和仁	51
『子どもを支援する教育の心理学』 子どもの学びと成長を理解し、教育に携わるためのバイブル	芳地 泰幸	52
『心理職のための産業保健入門』 職場のメンタル対策に必携の一冊	編集部	53
労働科学のページ		54
次号予定・編集雑記		60

新しい世紀に踏み出す

濱野 潤

新型コロナウイルス感染第6波の到来とともに新しい年を迎えました。今年こそコロナ問題の収束を願うばかりです。

本年労働科学研究所は新しい世紀に踏み出します。これからの時代に労研の存在価値を発揮するためにはどうすればよいでしょうか？ 思いつくままにいくつか私見を述べます。

まず、労研百年の歴史を所員自らが血肉化することです。百年の歴史は労研の中に知的資産として蓄積されています。

労働の現場で発生してきたさまざまな課題に限られた資源で対応してきた「現場力」の集積体です。こうした「現場の知恵」を学び続け、自家薬籠中のものとするのです。過去の現場の知恵を死蔵するのではなく、所員の能力に転化することによって新しい問題に応用することが可能になります。人的資本の価値を高め、現在労働現場で生じている問題に取り組み、課題を解決して社会に貢献していくことが我々の使命です。

次に、これからの10年はこれまでとは全く違う10年になることが想定されます。DX、カーボンゼロ等様々な形で世の中に現出しつつありますが、ものごとの変化のスピードの速さ、リスク

の高まりは衝撃的であり、経済社会の仕組みにも大きなインパクトをもたらすでしょう。労働の現場も例外ではありません。これまでのやり方を踏襲するだけでは問題解決にはつながらない、企業経営者のみならず労働者をはじめすべての経済主体が悩み、立ち向かうべき大きなチャレンジと言えます。その中で労研は何ができるのかが問われることになりました。

未来に向けての我々の知見は限られています。ですが、これからの労研を担う所員が議論を重ね、10年先のありたい姿（「2030年ビジョン」）を3月にまとめます。

最後に、百周年をゴールとして新生労研の運営の指針としてきた現行中期計画（ビジョン2021）が本年度で終了します。「労働科学で社会に貢献する」というミッションを掲げ、研究では「質の高い研究」、経営では「経営面での自立」、広報・マーケティングでは「労研ブランドの再構築」、産学協働では「桜美林学園との連携」を目標とし、目標達成に向けて分野別成果目標を設定し、必要な戦略・戦術により実現を図ってきました。コロナショックの到来もあり、新生労研の基礎固めは道半ばではありますが、現行中期計画は一定の役割を果たしたと考えて



はまの じゅん
大原記念労働科学研究所 理事長

います。前述の今後10年のビジョンを踏まえ、その実現に向けた第一ステップとして2022～2024年度を対象期間とする新たな中期計画を策定中です。3月には研究、経営、広報・マーケティング、産学協働の4分野で今後3年の姿を明らかにし、新年度からその実現を図っていきます。

新世紀に踏み出すといっても大事なことは、ありがたい姿やビジョンを掲げながら着実に一步一步前に進めていくことです。まず今年、コロナ禍の厳しい環境の下ではありますが、確かな手ごたえの感じられるような一年とすべく所員一同力を合わせていきたいと願っています。

皆様方の変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

